

第21期町田市立図書館協議会

第2回定例会議事録（要旨）

日 時 2026年2月10日（火）14時～16時
場 所 町田市立中央図書館 6階中集会室
出席者 （委 員）小山 憲司、若色 直美、大石 眞二、工藤 成、
中川 妃菜、福田 有美子、高橋 峰子、吉田 和夫、
二川原 陽一
リモート参加 仲村 拓真
（事務局）図書館長、図書館副館長、図書館担当課長
図書館職員11名
傍聴者 3名

○事務局 定刻より少し早いですが、ただいまから第21期第2回町田市立図書館協議会を開会いたします。

会議に先立ちまして、事務局から報告をさせていただきます。本日の会議ですが、委員10名、皆様ご参加いただいております。定足数である過半数を満たしておりますので、会議は成立しております。A委員はリモートで参加していただいております。

次に、本協議会は、「町田市審議会等の会議の公開に関する条例第3条」に基づき、公開が原則となっております。本日の傍聴についてですが、傍聴人は3名でございます。

続いて、配布物の確認です。会議資料につきましては、お手元に配布資料一覧をお配りしておりますので、ご確認いただき不足などありましたら随時、事務局スタッフまでお声がけをお願いいたします。

それでは、委員長、会議の進行をお願いいたします。

○委員長 年が明けまして、週末に突然大雪になり、皆様大変だったかと思いますが、無事にご参加いただき、ありがとうございます。本日もよろしくお願いします。

早速ですが、お手元にある議事次第に基づきまして進めてまいります。次第を見ていただくと分かりますとおり、本日の議題は2つございます。最初に次第の1つ目、図書館評価について進めてまいりたいと思います。

まずは事務局からご説明いただきたいと思います。よろしく

お願いします。

○事務局

まず資料の説明をさせていただきます。

資料１－１です。こちらは委員長に作成いただきました「町田市立図書館の図書館外部評価に関する報告」になります。こちらにつきましては後ほど委員長から内容のご説明をしていただきます。

資料１－２をご覧ください。こちらは事業ごとのコメント案になります。各委員からお送りいただきましたコメント案を活動指標ごとにざっくりとまとめて「評価」と「関連事項提言等」に分けさせていただきました。

文体に関しては、ですます調に整え若干の言葉の修正や補足をさせていただいております。

それでは資料１－２の、事業ごとにいただいたご意見の一部をご紹介します。

重点事業１６「子ども・若者の読書活動推進」です。

「第五次町田市子ども読書活動推進計画」が策定されたことを評価するとともに、基本理念の具現化や基本目標の達成に取り組んでほしいというご意見をいただきました。また若者が参画するイベントの実施も目標を上回る件数を実施し、本に触れるきっかけになるなど工夫が凝らされているということで評価いただいております。

重点事業の１８「学びにつなげる図書館体験」です。

広く体験の機会を設けて実施していることは評価されて、継続を期待する言葉もいただきました。一方ターゲットを絞ったほうが効果的ではないかとのご意見もいただきました。移動図書館の出張運行は、日常で図書館を利用しない人、しにくい人にアプローチできる機会であり、積極的に進めていることは評価いただきました。レファレンス事例の蓄積、紹介、パスファインダーなどの情報源の整備を評価いただきました。引き続き実施するとともに人材、ツールの充実にも言及いただいております。

重点事業２３「多様な図書館サービスの提供」です。

P R 展示等の実績件数が目標値以上になったことは、多様性に向けての図書館の取組が広く市民に伝わる内容であると評価いただくとともに、継続実施の希望をいただきました。

また、利用者の満足度も重要であるとのご意見もいただきました。ボランティア養成講座の事前アンケートで課題を把握し、実践的な講座を開催したことは評価いただきました。PRや講座の内容等にいろいろなご提案もいただいております。

重点事業33「図書館再編と運営体制の構築」です。

市民との対話が複数回行われていることや、アンケート調査により市民の意見を聴取していることは評価いただきました。ただ、それらの中で示された課題への対応を丁寧に行うことも重要とされています。つるかわ図書コミュニティ施設は官民協働で取り組まれ、無事開設して、地域に根付いた新たな事業として評価されました。指定管理者制度が導入されている鶴川駅前図書館について、管理運営状況評価委員会が開催されていること、運営が順調であることは評価されました。今後のモニタリングや評価の継続、支援の継続についても言及いただいております。

重点事業39「地域で活動する図書館ボランティアの育成・支援」です。

読書離れには「読み聞かせ」が有効な方法の1つということで、担い手の育成は今後も進めていただきたいというふうにいただいております。市民向けの講座は、開催場所や講座の進行方法について評価いただきました。ボランティア養成講座は目標を上回ったことは評価いただきましたが、応募者全員を当選とできなかったのがもったいないというご意見もいただきました。

中央図書館事業です。

多岐に渡る評価をいただきましたので、いくつかのご紹介になります。図書館プランナーの活動には若年層への働きかけということで多く評価と期待をいただいております。電子書籍サービスや利用促進のためのPR、地域資料のデジタル化も評価いただき、さらなる充実が求められております。貸出点数が減少する中、利用実態の把握や対策などにもいろいろなご意見をいただきました。

本当に多岐に渡るコメントをいただきましてありがとうございます。一部ですが、以上ご紹介とさせていただきます。次に、委員長の方からお願いいたします。

○委員長

では、資料は1つ前に戻りまして、資料1－1をご覧ください。1、2はこの外部評価に関する概要が記されております。1つ1つは読みあげませんが、9月に開催された図書館協議会において館長から依頼があり、そちらに従って、外部評価を皆様にご協力いただきました。ありがとうございました。

2をご覧くださいと分かりますとおり、2024年度の評価から新たな評価方法を用いることになりました。今、ご紹介のあった5事業13指標について、1事業ずつ4名の担当委員を割り当てて、それぞれで評価案を作成いただき、お寄せいただいたご意見を、事務局にいくつかピックアップして紹介していただきました。

そして、皆様からいただいたご意見等を基にして、私の方で報告書を作成するという段取りになっておりました。皆様のお手元にございます資料1－1のとおり、私なりに案をまとめましたので、皆様にお諮りするところです。すでにお目通しはいただいているかと思いますが、せっかくの機会ですので、読みあげる形で皆様と一緒に確認・共有していきたいと思っております。

3の外部評価の結果をご覧ください。「町田市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（2024年度分）報告書」における図書館所管分（5事業13指標）、並びに2024年度中央図書館事業について、外部評価を実施し、各事業に対して評価を記載しました。

4の外部評価実施による評価と提言からは私が実際に記したものです。構造としては、（1）の全体に関わる評価と、（2）外部評価実施全体に関わる提言というように、中身は大きく2つに分けてあります。

では、2ページ目の（1）全体に関わる評価です。2009年度より3期にわたって実施してきた外部評価は、2024年度から第4期となります。評価対象も3にあるとおり、「町田市教育プラン24－28」の図書館該当項目5事業13指標が対象となりました。併せて、年度ごとに市直営の図書館1館も評価することになり、2024年度は中央図書館が対象です。各項目に関して、次のとおり評価をまとめました。

1つ目は子ども・若者の読書活動推進です。第五次町田市

子ども読書活動推進計画を継続して策定した点は評価できる。今後は、計画に基づき、学校図書館を含む全市的な連携による読書活動の促進が期待される。また、若者参画による読書普及イベントは目標を上回り、「本の福袋」など子どもが新たな本に触れる機会を生む工夫も見られ、高く評価できる。一方で、こうした取組が十分に周知されていない点は課題である。全体として、子どもを取り巻く環境が大きく変化する中、家庭環境による読書格差への対応、読書の意義を子どもに伝える工夫、学校との連携強化、不登校児童生徒への支援など、図書館が果たす役割は一層重要になっているといえる。

2つ目として、学びにつなげる図書館体験です。学びにつなげる図書館体験では、移動図書館の積極的な運行により、図書館を利用しにくい層へのアプローチが進んでいる点が高く評価できる。レファレンス事例の蓄積や地域に関するパスファインダーの整備も着実に進められており、利用者が調べやすい環境づくりを今後も継続してほしい。一方、図書館講座や体験事業は実施回数が増え目標を達成したものの、参加者数が限定的であることから、ターゲット設定の明確化が課題といえる。レファレンス件数は目標にわずかに届かなかったものの、これまでの実績を踏まえれば十分評価できる。他方で、生成A Iが普及する時代におけるレファレンスの在り方を見据え、認知度向上や人材育成を進めることが今後の重要な検討課題となる。

3つ目が多様な図書館サービスの提供です。障がい者サービスのPR、ボランティア養成講座、DAISY再生機器の貸出・操作支援のいずれも概ね目標を達成しており、取り組み自体は評価できる。一方で、サービスの質は件数ではなく利用者の満足度が重要であり、点訳ボランティア養成などはニーズ調査を踏まえた実施が求められる。ディスレクシア支援としてのリーディングトラッカーの貸出・提供やワークショップを通じたPR活動は評価できるが、子どもにとっても有効な支援であることから、学校図書館との連携や周知の強化が必要である。また、本事業はいずれも読書バリアフリー法に基づくサービスとして位置づけられ、障がい者のみならず一般市民、外国人およびその子どもなど幅広い対象の認知と対応の強化が求められる。さらに、他自治体との連携や研

修の充実など、サービス拡充に向けた取組が期待される。

4つ目の事業が、図書館再編と運営体制の構築です。図書館再編と運営体制の構築に関しては、市民への丁寧な情報提供と対話の重視が共通して求められる。さるびあ図書館と中央図書館の集約では、意見交換会やアンケートの実施、結果の公表は評価できる一方、これらを形式的に終わらせず、市民ニーズを継続的に把握し、課題への対応を明確に示す必要がある。つるかわ図書コミュニティ施設は官民協働の新たな取り組みとして期待され、利用者の声を反映する工夫も評価できるが、補助金の在り方や持続可能な運営支援が課題である。また、指定管理者による鶴川駅前図書館の運営は概ね良好とされるものの、鶴川図書館の転換を踏まえ、両施設が地域住民にどのようなサービスを提供していくか検討が求められる。さらに、各館の評価導入や文化施設との連携、SWOT分析などの分析手法の活用、市民対立を避けた慎重な集約検討など、透明性と継続的評価を重視した運営体制の構築が必要である。

5つ目が地域で活動する図書館ボランティアの育成・支援です。市民向け絵本の読み聞かせ講座の開催回数や、おはなし会ボランティアの新規登録者数が目標を達成した点は評価できる。一方で、読み聞かせ講座は基礎編1回目や実践編で定員を下回っており、参加者の評価が概ね良好であることを踏まえると、講座内容に加えて周知方法や開催方法の見直しが求められる。おはなし会ボランティアは、応募者が定員を大きく上回るなどニーズの高さが示されており、受け入れ枠の拡大や他のおはなし会への誘導など柔軟な対応が望まれる。さらに、障がい者サービスにはボランティアだけでなく職員にも高度な専門性が必要であり、意見反映の仕組みや研修体制の充実が重要である。障がい者サービスボランティア養成講座が事前アンケートを通じて課題を把握し、実践的な内容を実現した点は高く評価できる。

最後に中央図書館事業に関する評価です。中央図書館は、図書館プランナーによる若者向け企画や多様なイベントの実施、電子書籍サービスの拡充、地域資料のデジタル化など、個々の事業を着実に推進しており、利用促進に一定の成果が見られる。システム更改に伴う休館の影響はあったものの、

来館者数は月平均で増加し、登録者数も伸びている。一方で、貸出点数やリクエスト件数は減少傾向にあり、利用実態の丁寧な把握が課題である。イベントの参加者数は増加したのもあれば減少したものもあり、各回のばらつきも大きいことから、人的資源とのバランスを踏まえた実施計画の検討が必要となる。若者向け学習スペース「わいわいキャレル」や電子書籍サービスの利用は増加しており、さらなる周知と利便性向上が期待される。同時に、多様な背景をもつ子どもたちの学びの場としての図書館の役割にも注目したい。財政が厳しい中で資料購入費を維持し蔵書の充実に努めている点は評価できるが、老朽化した施設の修繕は喫緊の課題である。中央図書館および町田市立図書館が抱える課題に対応するため、有資格正規職員の適切な配置や、市民との意見交換の場である図書館協議会での積極的な対話が求められる。

以上が5事業及び中央図書館に関する皆様からいただいた意見を取りまとめた内容となります。

私たち協議会に求められたのは（１）だけだとは思いますが、皆様からいただいた意見を読み解いていくと、この外部評価そのものに関するコメントと言いますか、意見を述べるべきではないかと考えて（２）にある外部評価実施全体に関わる提言という項目を用意しました。

４（１）でも述べたとおり、２０２４年度の図書館評価は新たな方法で実施されました。その結果を踏まえ、次の２点を指摘します。

１つ目は、外部評価そのものに対する意見です。複数の委員から、外部評価の対象となる報告書や資料について、書式の不統一や記述内容のばらつきなど、体裁、内容の両面で問題点が指摘された。評価やその準備は業務負担の増加につながり得るが、図書館活動を市民に分かりやすく伝えることは、公共サービスを担う自治体の重要な責務であり、外部評価を図書館協議会に依頼する際にも同様の姿勢が求められる。『町田市の図書館評価：２０２３年度事業の評価結果』（以下２０２３年度評価）においても、各図書館の取組の見える化が課題として示されており、今後の改善が期待される。さらに、第２１期第１回図書館協議会では、開催回数が２回となったことで委員同士の意見交換の機会が限られ、市民として意見

を届けにくいとの指摘もあった。この点も2023年度評価の「(2) 評価活動の課題」で「①外部評価における十分な時間の確保と、新委員への事前説明」として課題に挙げられている。これまでも丁寧な外部評価が実施され、それを図書館事業に生かしてきたからこそ、外部評価の適切な実施と実質化を一層求めたい。

2つ目が、過去の評価結果との比較です。2024年度の外部評価対象となった5事業のうち、図書館による評価はAが1、Bが4でした。内訳を見ると、計画以上の目標を達成した活動が6、目標を達成したものが6、目標に届かなかったものが3であった。目標に届かなかった活動が3つあるが、(1)で述べたとおり、いずれもほぼ目標に近い水準にあると考えられる。他方、2023年度は、A計画以上に目標を達成したという評価が7、B目標を達成したが4、Cおおむね目標を達成したが8、D目標に達しなかったと、E目標を大きく下回った実施できなかったは0であった。評価指標が異なるため単純比較はできないものの、達成状況は概ね前年と同程度であり、計画に基づく事業推進に継続して取り組んでいる姿勢がうかがえる。

また、これまで繰り返し求められてきた資料購入費については、決算額で見ると2023年度の47,459千円から2024年度は46,625千円へと834千円の減額となりました。市民一人あたりの年間貸出点数は6.82冊から6.19冊へ、蔵書回転率、1冊あたりどのくらい借りられているのかも、2.52回から2.31回へと減少が続いている。これらの数値のみで図書館活動を評価することはできないが、資料費は図書館運営の基盤であることから、今後も予算確保に向けた積極的な取組を期待したい。

最後に結びとして、図書館協議会は、「2024年度図書館評価」の外部評価機関として評価を実施しました。繰り返しのようになりますが、今回は新しい評価方法で評価に臨みました。その結果、評価項目に関わる図書館活動の目標は概ね達成されており、この点は高く評価できます。他方、市民による図書館利用は漸減傾向にあります。図書館活動の基本を維持しつつ、市民ニーズや社会情勢に応じた柔軟な取り組みが求められます。今後、本外部評価が図書館活動のさらなる向上に

資することを期待します。

皆様から多様な意見をいただきまして、これをまとめるのは本当に大変でした。前回、前委員長が作ったものより、2ページほど多くなってしまい、皆様にはなぜこんなにたくさん読まなくてはいけないのかと半分がっかりさせたところがあるかもしれません。

皆様からたくさんのご意見をいただいて、共通する部分も多かったのですが、それぞれの視点が多様であったということもあり、文字に起こしますと、これくらいになってしまったことはご容赦いただきたく思います。ただ皆様からいただいたご意見は出来る限り踏まえつつ、図書館活動をより充実させるために、伝えなくてはいけないことは基本的には盛り込んだつもりでおります。まず、こちらの報告書に関しまして「ここが足りないのではないか」とか「ここまで言わなくてもいいのではないか」など、皆様からご意見やご質問をお伺いして、議論を重ねたいと思います。基本的には本日、報告書を取りまとめたいと思っております。

ご意見いかがでしょうか。

○副委員長

多岐にわたる委員の意見をまとめていただいて、本当に大変だったと思います。それがきちんと網羅されていることに感動致しました。異論などは全くなくて、まずはお礼を申し上げたくて手を挙げさせていただきました。ありがとうございました。

○委員長

ありがとうございます。ちなみに私のことを褒めてほしいと言っている訳ではございませんので、好きなようにご発言いただけたらと思います。特に「私はこのことを発言したのだが、この部分はもう少しこういう風に表現を加えてほしい」や「表現を変えてほしい」などありましたら、ぜひご指摘いただけたらと思います。私なりの解釈、私なり作文なので、その人なりのくせが出てしまいます。皆様が書いたことと少しニュアンスが違うなどありましたら、そのあたりをご指摘いただけたらと思います。

特段無いようでしたら、私たちの思いを記した本報告書案を報告書として図書館に提出して、次年度の活動に役立てて

もらおうと思いますがよろしいでしょうか。

○一同 同意。

○委員長 ありがとうございました。

前回の会合で初めて委員長を引き受けて、皆様から本当に多様な意見をいただきました。皆様の継続的な思いもありますし、今回の1つ1つの事業に関して、皆様の視点、観点、問題、課題だと感じているところを、改めて私も、その一端を理解することができたかなと思います。この活動、お仕事をさせていただいて、皆様のご意見を頂き、それを書くことが出来るのは役得だと思いました。ありがとうございました。修正は特に必要ないということで皆様にご承認いただきました。

そして、こちらとは別にせっかくの機会ですし、新たな評価対象になったこともありますので、皆様から今回、実際に評価を行ってみたご意見やご感想など、何かご発言いただけたらと思いますがいかがでしょうか。

大変だったでも良いですし、本当はこちらもやりたかったなどいろいろなご意見、ご感想があるかと思います。ご発言いただけたら嬉しいです。

○B委員 前期から協議会に、宅配ボランティアという立場で参加させていただいています。他の委員の皆様は本当にいろいろな分野の勉強をされていて、その中に入って初めて参加し、資料を見て、これで評価するとなった時に、最初はすごくプレッシャーがありました。何度も資料を読み込み、自分の中で絞り出せる最大限を絞り出して、昨年終わりました。そして一年やってみて少し冷静になる事が出来ました。

昨年グループワークを委員の方、職員の方と一緒にやった場面が1番印象に残っています。最初はこういう場での発言は、なかなか出来なかったのですが、グループワークの時は自分の言いたいことを素直に言えて、いろいろな意見が出ました。やはりそこで出た意見には図書館に対する思いや本音を感じました。それを基にして今年も書きました。

皆様は、すごく専門的な意見や根拠のある意見で、私は

「こうやった方が楽しい」などの抽象的な気持ちの面しか言えないのですが、私は小さい頃から図書館で本を借りていて、図書館はすごく有難い存在でした。そのため図書館ボランティアをやらせていただいています。その時の思いが強くあり、図書館はとても良いところだと感じています。

今はスマホやデジタルが普及し、図書館という場所がそちらに取られてしまうのではないかと心配と寂しさがあります。時代の流れと言ってしまうえばそうなのですが、紙の本を読む機会、場所を提供する図書館というのは、やはりこれからも残してほしいです。

そのためには、今までやってきたことの繰り返しでは駄目だと思うので、人に訴えかけるものがあればと感じます。例えば町田市立図書館でボランティアをしていると、いろいろな方に言うのですが、その後の言葉が出ないのです。どういう図書館なのかと聞かれても、普通の町田にある図書館であるとしか言えないので、もう少し私の中でも「こういうところが町田図書館は面白い」と言いたいのです。特に何かが一番ということではなく、個性のある図書館だということを、この協議会を含めて皆様と一緒に考えて、ブラッシュアップやアップデートをしていかないと、貸出数にしても利用者の方にしても、離れて行ってしまうと思います。また、図書館プランナーという若い方が活躍しているので、そういう人のアイデアをどんどん取り入れて、いろいろと新しいことに挑戦していく図書館になってほしいです。市立図書館だからできないではなく、そういう枠は取り払ってほしいです。図書館協議会の方々と、そういったことを話す場面があっても良いのかなというのが私の感想です。協議会委員をやらせていただいて、本当に勉強になりましたし、更に図書館のことを好きになりました。せっかく宅配ボランティアや協議会委員をやらせていただいているので、もう少し出来ることがあるのではないかとこの気持ちになりましたし、これからも共有していけたらと思います。

○委員長

ありがとうございます。Bさんから仰っていただいたとおり、図書館協議会が年2回を前提として開催していて、初回が図書館評価の事前説明、今回が図書館評価の完結、大きく

分けたら2つとなり、図書館評価を資料に基づいて、皆様各自の努力によって行うという形になっております。

そのこと自体はやり方としてはありなのですが、一方でこの図書館評価を通して、あるいは通さなくても「私たち協議会委員で語りたい」「伝えたいものがある」「違う伝え方、やり方もあるのではないか」というお話を、ご意見を受け止めました。まずはそういうご意見があったということを協議会の席で確認した上で、今後の協議会のあり方については、また改めて事務局でも考えていただけたらと思います。

引き続き今回の評価に関連しご意見、もしくは他のご意見でも構いませんが、何かございましたらぜひお願いします。

○C委員

この度はおまとめいただきありがとうございます。

まずBさんの方からもございましたように、以前は3名ほどでグループになり、そこで1つ1つの項目を割り当てられたものを一緒にお話をし、かみ砕いていくというステップがありました。それが今回はなかったということが非常に不安でした。ただ今回は担当以外の触れていなかった項目にも触れることができ、全体を見ることができて良かったと思います。

また、最後に記載のある事業別行政評価シートについては初めてのことでした。資料が配布され、こちらについて何かコメントをとというご指示がありましたが、私は結局提出ができませんでした。こちらについては、もう少し時間が欲しかったのと内容と意義を説明していただきたかったです。私たちはどの方面から何を言ったら良いのか、少しわかりづかったです。

そしてまた、最後に雑感として書いたことがあります。その場では「なし」となったのですが、全体評価を見て私が伝えたかった、どこかに反映してほしい気持ちがすごくありました。お目通しいただいた方もいらっしゃるかと思いますが、こちらには反映されていないので読ませていただきます。

私は不登校支援を開始して5年になりますが、学校という学び場から離れている子どもたちは評価がある学びに委縮している傾向があると感じています。それでも学びたいという

気持ちを子どもたちはいつも持っています。個人で知の情報を収集し学びを積み上げること、このような評価の無い学びを行うには図書館はとても充実した場であること、一人で自宅でパソコンとスマホを眺めているだけでは得ることができない学びの扉がもしかしたら図書館に行けば少し開くかもしれないということを伝えにいきたい。そのような思いをもってこの協議会のお仕事をさせていただいております。

またこの部分は評価ではないかもしれませんが、中央図書館にはレファレンス機能や他の館より充実しているものもたくさんあります。専門のスタッフも多い点なども伝えていきたい、アピールしていきたいと考えています。

元々の根本に戻ると、評価は何のためにやっているのかという話になるかと思います。次のステップアップ、改善、より良く市民・子どもたちが利用できるように繋げていくための作業であると思うので「この項目に対してやりました」というだけではなく、次に繋がっていくような項目、場所があっても良いのではないのかと思います。

不登校支援を通じて図書館に毎月連れて行っておりますが、その中で見えてくるものがあります。例えば、もちろんスタッフはそばに付いているのですが、行っておいでと好きなようにさせたときに、不特定多数の大人が居て学校とは違うので、中年の方が女子の横にピタッと付いてしまって、ずっと追いかけられたなど少し危険な場面もありました。

このようなことを考えると不登校支援を図書館でやるにも、いろいろな場を整えるということが必要だと感じます。支援スタッフの目や図書館スタッフさんの目も必要だと思いますし、他にもいろいろな問題点も出てくると思います。そういったことに繋げていってほしいと思います。子どもが昼間に学校に行けなくても、ここで何となく過ごせるということに、最終的に繋がってほしいです。

そのために話し合いがあったり、お伝えしたりという場が必要で、2回では非常に少ないと感じます。私はそういった視点ですが、それぞれ皆様のお立場からいろいろと深めたいことがあると思いますので、そういった点に関してもご一報いただければと思いました。

○委員長

ありがとうございます。私から一言申し上げます。また事務局からもありましたらご意見いただけたらと思います。ご指摘いただいた点はもちろん読んで盛り込もうと思っておりました。本当に少しで申し訳ないのですが、4の（1）の1）の最後に「不登校児童生徒への支援」を入れることによって伝えたいという気持ちを含められるよう努めました。このことを1つお伝えした上で、今お話しがあった点に関して、図書館から何かご意見ございましたらお願いいたします。

○事務局

いろいろと皆様ご意見ありがとうございます。ご指摘いただいた点に関してなのですが、委員長からも外部評価そのものに対するご意見の中にも、回数のお話しはいただいております。その点につきましては、来年度予算の話しが今はまだ出来ない状況なのですが、少なくとも2回よりは増やして、いろいろなテーマで我々も考えたい部分も来年度はございますので、それも含めて評価の時間も取りながら皆様のご意見をいただきたいと思っています。

またワークショップの話がとても評価をいただきました。そういったやり方などのヒントもいただけたので、今後どのように皆様に評価していただくかも、もっと研究を深めたいと思っています。

そして先ほどの不登校の子どもたちへの支援の関係で、図書館に何ができるのかという部分ですが、どうしても取り組みごとに書くという部分が出てしまうのですが、このように幅広くご意見をいただける場を随時、設けていけたらと思っています。我々もその中で、このように不登校のお話しをいただけたことはキャッチできますし、議事録にも残すことができます。ぜひ、テーマ以外の部分で気になったところやアイデアもご発言いただけると、我々はそれを受け止めることができますので、これからもそのようなご意見をいただけたらと思います。

○委員長

ありがとうございました。他に皆様からいかがでしょうか。

○副委員長

2回では協議する内容も限られてきます。今までは、次の協議会までの間に、直接担当者の方といろいろお話ししな

がらリアルなご意見を実感し、こちらに伝わってくるものが多かったと感じます。今は書面やアンケートの答えでしか、職員さんの実感を受け取ることができず、結果のみで評価をするのは、難しいと感じました。やはり利用者さんと子どもと相對するのはここにいる職員の方々です。図書館の業務をどう感じているのかを私たちは知りたいと思います。ぜひヒアリングできるような場を、設定していただけるとありがたいなと思いました。

また2回の会議の間にも、図書館ではいろいろなことが進んでいると思います。行っているイベントのことや、その報告なども別紙にして、資料というほどでなくても経過を送っていただかないとタイムラグがありすぎて難しいと思いました。それについて評価、協議するのは難しいので、資料を送っていただくか、せめてこのようなことがありますという報告を送っていただくことは可能でしょうか。

○事務局

我々としてもお忙しい皆様に、情報提供とはいえ五月雨式でお送りするのも遠慮してしまう部分もありつつ、やはり図書館で今、何が起きているのかという状況をトピックスとしてご紹介差し上げるのが良いのかなと、この場で進行などをさせていただく中で感じておりました。大きなイベントや動きなどがありましたら、また図書館からかという感じになってしまうかもしれませんが、メールなどでなるべく積極的にお届けできるようにしていきたいと思います。

また、社会教育、学校教育に関係する皆様に集まっていたいており、そういった方々と直接近くで意見を交わせるのは、我々にとってとても大事な場だと思います。このような場でなかなかご発言が難しいと先ほどもご意見がありました。やはり我々のご意見をいただくことが目的ですので、なるべくご意見をいただけるような方法も考えていきたいと思っています。来年度以降の宿題とさせていただいて、またお答えできればと思っております。

○副委員長

期待させていただきます。

○委員長

ありがとうございました。評価はもちろん私たち協議会の

1つの大きな役割なのですが、一方図書館側からみたら、私たちは一番接しやすい市民の代表という立場でもあると思いますので、そういうチャンネルをぜひ、図書館は上手に使っていただけたらと思いました。他に何かございますか。

○D委員

私は生涯学習審議会の方からきておりまして、A先生も生涯学習審議会に入ってくださっています。図書館は、学校教育を超えた生涯学習の大きな柱だと思います。様々な図書館がそれぞれの機能を果たして、生涯学習に資するというのが基本的な考え方だと思います。そのことについて今回は、話し合いなどではない文章による提出の形が多くなったことは少し残念だなと思います。

また去年もそうでしたが、今回の委員長も大変大活躍でした。こちらを作るのにどのくらい掛かっているのかと思ってしまいました。私だったらチャットGPTを使い1時間くらいで出来るかなと思うのですが、それにしてもやはり手間暇掛かります。委員の方々の時間や手間を会議以外で奪うのはいかななものかと思うので、出来れば会議の中で終わらせてほしいということを申し上げたいと思います。

2点目ですが、実は豊島区でも図書館協議会を引き受けています。そちらは図書館経営協議会です。少し大層な名ですが区長の意向でそうなっていて、非常に力を入れています。何に力を入れているかという、まず1つは各分館の機能分解です。各分館それぞれが独自の仕組みを作って、独自の活動をしています。よく考えると、町田も例えばさるびあ図書館のことなど、そのようなことをやっています。私は町田における移動図書館の実践はすごいとっていて、高く評価しています。

中央館を見させていただいて、中央館がいろいろ努力しているというのが非常によく分かりましたし、その他にもいろいろあるかと思います。このようなことを、もっと図書館として、市民にアピールしていく必要があると感じました。

中央図書館はもちろんですが、各分館がどのような方向性をもって何を目指して、何をやっているのかというベクトルを明確に出していき、そちらについて通常の行政的な評価ではなく、その図書館はどういう在り方なのかということ

皆様と評価したいと思います。

昔、小金井でもやったことがあるのですが、小金井はあちらこちらと現場に行って、実際に各館の人と話をして、評価をしていました。やはりそのような形が必要なのではないかと思います。指定管理のところは行政が評価するのですが、毎年変わっていく図書館の在り方、町田独自の図書館の在り方を、もっと全ての館に渡って市民評価のようなことが行われる必要があるのではないかと考えています。

3点目です。委員長はじめメンバーの方々の自己負担が少し多いのではないかと感じています。このことについて図書館はきちんと考えないといけないし、もう少し回数を分ける、分科会を行うという形でやっていけば、委員長の負担も少なくなるのではないかと思います。

今回、委員長にしっかりとした文章を出していただいたので、大変ありがたいと思うのですが、こちらに掛かった労力はなかなかで、多分他のことを犠牲になさったのではないかなと思います。私だったらやりたくないと感じてしまいます。そこはもう少し考えていただきたいと思います。

続いてなのですが、来年の評価の在り方を来年になってから決めるのでは遅いので、早めに決める必要があると思います。私も生涯学習から出ていて生涯学習審議委員を辞めるので、図書館とも縁が切れてしまうと思っています。その間、大振りするといけないのではないかという思いもあります。そこは評価とは別の形にしつつ、提案とかあるいはアドバイスのような形で行う必要があるのではないかと思います。以上、長くなりましたが私からの感想でございます。

○委員長 ありがとうございます。事務局の方から何かございますか。

○事務局 会議外での時間などの負担を避けて、なるべく会議内で出来るようにしたいという思いはございます。今回は、会議時間が少なくなってしまったところが要因として多くあるかと思います。先ほどお話しにあったように、直接コミュニケーションを取れるような機会を含め、やり方を考えていきたいと思っています。確かに来年度に入ってから考えるのでは、

そこから議論がスタートすることになり、遅くなってしまいます。そのようなご意見もいただきましたので、皆様にメールなどで情報を差し上げるのかどうかも含めて、一度考えるお時間をいただき、良いやり方を取り入れていけたらと思います。

○委員長

ありがとうございます。本日2つ議題があります。1つは評価報告書の案で、皆様にご承認いただきましたので、これで終了としたいと思います。

私から一言だけ付け加えますと、私は書面だけで評価するというのは他の図書館協議会でも行っているのですが、特に違和感はないのですが、やはりそれぞれ、書面だけで行った時の経験、書面以外で行った時の経験、いろいろな経験をお持ちだと思います。今回初めてだとするならば、その経験値が1つ積みあがり、そしてまた他のものと比べてどうかということも、経験として得られたと思います。

皆様からのご意見も大切にしたいですし、事務局側のまわし方、評価の方法含めて一度ご一報いただいて、改めて皆様に周知していただけたらと考えます。まだご発言しようと思っていた方には大変申し訳ないのですが、一旦こちらについては終わりにいたします。

文章は修正箇所が1か所見受けられたので、修正を含めてなのですが、改めましてこれもちまして、館長へ図書館外部評価の提出とさせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

○図書館長

改めまして、2024年度の図書館評価をいただきました。

先ほど委員長も仰ったように、皆様から多岐に渡るコメントやご意見をいただきましたので、図書館の運営のためにはいろいろなことを考えなければいけないと再確認したところです。本当にありがとうございました。

皆様からお話ありましたが、協議会含め、市民の参加の場や手法が少ない・足りないというご意見をいただき、仰るとおりだと思いますので、いろいろと考えていきたいです。

また事業別行政評価シートのデータを皆様に見ていただき、

そちらがなかなか見にくかったというご意見があり、確かにそうだったと思います。こちらは何のために作成しているかというと、市の財務状況の確認と評価のためということになります。町田市内の全ての部局がこちらを作成しています。市の仕事は多岐に渡るため、各部局が同じベースで比較し俯瞰で見られるのが、こちらの資料になります。その点をご認識いただければと思います。本当にありがとうございます。

○委員長

ありがとうございました。

では改めまして、議題の２つ目、図書館からの報告事項になります。多岐に渡る報告になるかと思いますが進めたいと思います。事務局の方からよろしくお願いします。

○事務局

それでは資料２の図書館からの報告事項をご覧ください。

まず項番１、町田市議会の動向でございます。第４回定例会では図書館に関連する議案や、私共からの報告、議員からの一般質問はございませんでした。

続いて項番２、町田市教育委員会の動向でございます。１１月に開催された第８回定例会において、２０２５年度のＰＯＰコンテストの開催について報告いたしました。次の項目にＰＯＰコンテストの関係がございますので、また改めてご説明いたします。

それでは続いて項番３、各種計画に基づく取組でございます。ここからは各担当から説明させていただきます。ではそれぞれお願いします。

○事務局

私の方からは項目３（１）（２）続けて報告させていただきます。

まず図書館からの報告事項項目３（１）「ＰＯＰコンテスト２０２５」図書館協議会賞の投票についてご説明いたします。事前にお配りした資料３をご覧ください。また白黒にはなってしまうのですが、当日資料としてＰＯＰの１次審査通過のものもお配りしています。こちらについては、２月６日から「押し本を伝えよう！ひとことＰＯＰコンテスト２０２５」の第２次審査を、各市立図書館や書店で行っております。

委員の皆様には図書館協議会賞用として、第１次審査を通

過したこちらの10作品の中から4作品を選んでいただければと思っております。すでに、第1次審査を通過したこの10作品につきましてはPDFデータでお送りしております。本日すでに、委員長とE委員からはお返事はいただいております。ありがとうございます。

こちらの審査については、2月18日までに資料3のデータに4作品を選んで記入し、メールで添付する形で図書館へ返信していただければと思います。

選考方法は、1位が4点、2位が3点、3位が2点、4位が1点、として集計し上位4作品を決定します。最優秀賞・優秀賞に当たらなかった最上位の作品を図書館協議会賞とする予定にしております。作品を選んでいただく際のコメントなのですが、ホームページに載せますので、そのコメントはご本人にお伝えしたいと思います。受賞者ご本人たちが喜ぶますので、ぜひご協力をお願いいたします。また、ここ中央図書館4階でもシール投票を行っていますので、帰り掛けに投票いただければと思います。POPコンテストについては以上です。

次に項目3(2)「図書館プランナーの活動報告について」のご説明をいたします。こちらは資料4をご覧ください。図書館プランナーは、自由な発想で図書館でやってみたいことの企画・運営などを行う15歳から25歳までのボランティアのことです。2025年度は、2月以降に実施するものも含め8件のイベントを企画しています。

資料4の項目1ですが「図書館プランナーが企画したイベント」を一覧にしております。例えば6月には、プランナーのおすすめ漫画を語りたいという熱意から、「ありのままアニメ化漫画を5分で話すぜッ!!」と題して、アニメ化している、またはアニメ化した漫画を語るイベントを実施しています。12月には、ブックカバーをかけて中身が見えない状態で本を借りてもらう「おたのしみBOOK」や、新しい本と出会えるきっかけを作るため、「わたしの一冊～読書の輪を広げるビブリオバトル～」を開催しています。その他のイベントは記載のとおりです。項目2は今後のイベントです。これらのイベントは一度開催し参加者から好評だったため、2回目を企画しているものとなります。

また記載はありませんが、児童青少年課が実施する「まちだ若者大大大作戦」というイベントがあり、このイベントに図書館プランナーの方も是非参加してほしいというお声掛けをいただきました。こちらは3月15日に町田ターミナルプラザで行う第2部と、3月29日に薬師池公園にブースを出展する第3部という構成となっております。委員の皆様もお近くに行かれた際は、お立ち寄りいただければと思います。2項目の説明は以上です。

○事務局

資料5をご覧ください。「F C町田ゼルビアとの包括連携協定に基づく読書活動推進の取組について」のご説明をさせていただきます。

図書館では、「町田市教育プラン24-28」に基づき、読書活動の推進に関する様々な取組を行っています。2025年3月からは町田市民間提案制度を活用し、『本に興味がなくとも訪れたいくなる図書館「映える図書館」を創造する』をテーマに、図書館資源を活用した新たなエンターテインメント性のあるレクリエーションの取組提案を募集いたしました。数社から提案がありましたが、これまでも他部署と個別協定を締結し地域に貢献してきた実績を持つF C町田ゼルビアの提案は独自性や将来性・継続性があることから、これらを株式会社ゼルビアとの包括連携協定に基づく新たな取組として進めることとなりました。図書館での取り組み内容は、この資料の項番2「協定に基づく主な取り組み内容」にあるとおりです。

(1) 中央図書館の館内イベントでは、選手による本の読み聞かせ音声や映像を制作し上映といった選手から図書館利用者へのアプローチのほか、館内の装飾などを行います。

(2) 町田市立図書館のPR活動につきましてもゼルビアのPR力を生かし、ゼルビーの移動図書館随行、ゼルビアオリジナル図書館カレンダーの制作・配布を行います。これらの取り組みにより、町田市の来館を増やし読書活動の推進に繋がります。

2階エントランスから4階のエスカレーターにて行っている、ゼルビア天皇杯優勝記念写真展の様子をXに投稿したところ、通常の20倍以上の1万件の閲覧がありました。また

先日、ゼルビアのマスコットキャラのゼルビーが来館した様子もXに投稿し、こちらも1500件を超える閲覧があり、ゼルビアのPR力を実感しているところです。項番3の実施スケジュールを見ていただくと、館内装飾のほか、3月1日からは、先ほどお話した「ゼルビアオリジナル図書館カレンダー」を用いてのゼルビア及び地域の書店とコラボしたスタンプラリーを実施いたします。これはスタンプに応じた景品をゼルビアが用意しており、景品は図書館以外に市内の書店、株式会社紀伊國屋書店小田急町田店、株式会社久美堂本店・本町田店、株式会社ブックファーストルミネ町田店、T S U T A Y A町田木曽店の5か所でも受け取りが可能です。これもゼルビアコラボを知った書店側から、お声掛けがあり図書館・ゼルビア・市内書店の3者事業の実現に至ったものです。

また、あわせて図書館の施設案内、イベント案内をゼルビア選手の音声で録音し、館内アナウンスとして放送予定です。今後も、図書館の年間イベントや、ゼルビアのシーズンスケジュールに合わせたコラボイベントを適宜実施し、来館者の増加や読書活動推進に繋げていきます。

○事務局

私からは（４）（５）のご説明をいたします。資料6をご覧ください。「2026年度町田市立図書館カレンダーについて」です。毎年、図書館カレンダーを作成して配布しているのですが、2026年度分については、来館を促す新たな仕掛けとして、町田市とゼルビアの方で包括連携協定に基づいて、図書館とホームタウンチーム及び書店が連携した取組として、オリジナル図書館カレンダーの作成・配布することになりました。オリジナル図書館カレンダーの作成はゼルビアが行います。特徴としては、片面が図書館のカレンダー、片面が「まちだ読書マイル」という名前のスタンプラリー用紙となっています。毎月、町田市立図書館に来館することで1マイル、1つスタンプが貯まるほか、図書館で実施する一部のイベントに参加することでもマイルが貯まるような仕組みとなっています。また、一定数のマイルを貯めることで、ゼルビアが用意してくれた景品を受け取ることも考えています。カレンダーの配布及び景品の受取場所は町田市立図書館

の他、先ほど申し上げました協力いただいている市内の書店 5 か所となっています。どれほど参加が増えるかは分かりませんが、今後も来館を促す新たな仕掛けを検討・実施していきたいと思いますので、委員の皆様からもアイデアなどいただけたら幸いです。

次に（５）「２０２５年度ことばらんどショートショートコンクールについて」です。こちらの配布資料はありません。今回の受賞作品、展示中の過去の受賞作品についてご説明いたします。今年度は７月１日から９月２０日までを募集期間として、町田市在住・在学の小学生・中学生・高校生から 847 作品の応募がありました。第一次審査は事務局職員にて実施し、40 作品に絞りました。第二次審査はショートショート作家の田丸雅智氏が審査員長を務める審査員 3 名で行って、10 作品が受賞となっています。現在、受賞作品は文学館の 1 階で 4 月 5 日まで展示しています。また、中央図書館 4 階では 2 月 11 日まで過去の受賞作品を展示していますので、お帰りの際にご覧いただければと思います。

○事務局

続きまして（６）「２０２５年度蔵書点検結果報告」です。蔵書点検では、図書館の蔵書資料と図書館システム内のデータを突合し、実際の資料とコンピュータ内のデータを一致させる作業を行っています。利用者に正確な情報を提供するために行っておりますが、図書などの備品の現況確認をする意味合いもあります。期間は、文学館で 10 月 20 日の 1 日間、中央図書館では 11 月 10 日から 11 月 14 日の 5 日間で実施しました。10 月 20 日、11 月 10 日、11 月 13 日という元々の休館日に重ねており、追加の臨時休館は 11 月 11 日、12 日、14 日の 3 日間で済ませています。この点検で見つからずに新規に不明になった資料は文学館で 10 点、中央図書館で 192 点でした。なおこの期間は修理中など状態が不正な資料のデータ修正や、書架整理も行っています。2026 年度は今年行わなかった地域館の実施を予定しております。

またこちらに追加して、図書館システム関連でもう 1 点ご報告いたします。2026 年 1 月から、町田市立図書館ではメールマガジンを開始しました。毎月 1 日に新着図書案内、

15日には図書館職員おすすめ資料を発送しています。新着図書案内は今まで紙で作成していましたが、デジタル化をしてメールマガジンという形で広く発信するようにしました。また、メールマガジンをさらに活用するべく新たに図書館職員のおすすめ資料を発行しています。図書館ホームページでバックナンバーも公開しておりますので、委員の皆様もぜひ一度ご覧いただき、よろしければメールマガジンの登録や他の方へのおすすめをしていただけたらと思います。

システム関連ではこちら2点なのですが、もう1点だけ追加させてください。ガバメントクラウドファンディングについてです。こちらはレジュメに記載しておらず、資料も無いのですが説明させていただきます。

ガバメントクラウドファンディングとは地域のプロジェクトから寄付先を選ぶ、クラウドファンディング型のふるさと納税です。地域の課題や取り組みをプロジェクトとして掲載しており、より具体的な使い道を選んでふるさと納税を行うことができます。図書館ではこれを活用し、電子書籍サービスで児童・生徒に利用してもらうべく、同時アクセス可能な資料セットの充実を目的とした「子どもたちの読活（よみかつ）を応援！電子書籍でスキマ読書！」というタイトルで12月25日まで寄付を募りました。

これにより42万8千円集めることが出来ましたので、2026年度の予算として組み込み、電子書籍サービスにおけるよみもの、図鑑などの同時アクセス可能な資料セットの充実を行います。追加での説明は以上です。

○事務局

最後に（7）「2024年度公の施設の指定管理者管理運営状況評価結果について」のご説明をいたします。資料7をご覧ください。

1月13日に町田市教育委員会指定管理者管理運営状況評価委員会部会を開催しました。部会では、資料7の評価結果などを基に、2024年度の鶴川駅前図書館の管理運営状況について、運営はどうだったのか振り返り・検証を行っています。資料7の3ページ項目5をご覧ください。

「サービスの質に関する評価」という項目があるのですが、指標が1から3まで縦に並んでおります。指標1が利用者満

足度、指標 2 が来館者数、指標 3 が貸出点数となっています。それぞれ目標に対して結果がどうだったかの視点で、評価を行っています。

また 4 ページ以降は、さらに細かい項目について、事前に設定されている水準を満たしているのか確認を行っています。この部会の議事要旨は後日、町田市ホームページ上に掲載いたしますので、ご覧いただければと思います。

今回の部会では、図書館協議会の委員の委員長と A 委員が臨時委員として部会に出席いただいておりますので、お二人から部会の所感をお話いただければと思います。委員長からお願いしてもよろしいでしょうか。

○委員長 時間がないので、A 委員にお願いできますでしょうか。

○A 委員 委員長と一緒に臨時委員会という事で評価をしました。全体的には、例年形式的な報告ミスなどが続いていたのですが、今年は解消されていきました。また数値から言うと、来館者も増えているということもありまして、改善していると受け止めています。一方で、貸出冊数が頑張ってもどうしても減ってしまうということがありまして、当日の評価会議の時に、貸出冊数と評価指標、評価の仕組み自体がどれだけ有効なのかということについては意見を申し上げたと記憶しております。しかし全体として良好な評価だったと思っています。

○委員長 ありがとうございます。私と重なるところが多かったので、後ほどよろしければ議事録をご確認いただけたらと思います。

図書館からの報告事項 1 から 3 まで終わりました。一旦ここで皆様からのご意見、ご質問等を受け付けたいのですが、いかがでしょうか。

○F 委員 F C 町田ゼルビアとの連携のイベントや読書活動推進の取組ありがとうございます。学校はとてもプリントが多く、たくさん配布物があるのですが、こちらの内容のプリントも学校に来ているのでしょうか。このようなイベントの宣伝のプリントがあると、子ども達も来るのではないかと思います。

○事務局 この件に関しては、教育委員会の方には話しましたが、定例校長会などを通じてのお知らせはしておりませんでした。

○F 委員 もったいないですね。

○事務局 カレンダーについては補足になりますが、新たに入学する小学校 1 年生の皆様には図書館の案内などを送らせていただく予定なので、そのあたりをチャンスに、一緒に配布できればと考えています。

○F 委員 周知は本当に難しいと思います。一生懸命やっても、なかなか伝わらないという部分は、図書館も学校も一緒だと思います。よろしくお願いします。

○委員長 他の方はいかがでしょうか。

○D 委員 外部評価ですが、鶴川駅前図書館のみならず、本当は各館でそれぞれの評価があっても良いと思います。

資料 7 の 4 ページ、5 ページを見ると、外部の方たちがいろいろな業務をやっていて、頑張っていると思います。評価は、「適否」となっていますが。「否」はどうしようもないということで付けるのでしょうか「適」というのはどの程度の「適」なのでしょうか。

もう少し具体的に、例えば元気の出るような評価にした方が良いのではないのでしょうか。ここは「A」や、ここは「C だからもう少し頑張ろう」というように、その当事者の方たちが対象として評価されてそれで終わるのではなく、次のアクションが生まれるような評価を、評価者としてはすべきなのではないのでしょうか。

○委員長 事務局、いかがでしょうか。

○事務局 この評価については、町田市全体で適か否かという欄になっています。良いところを調べて書いてはいるのですが、ご指摘いただいた内容は今後、履行状況を書く際にもう少し工

夫していけたらと思います。

○委員長

続きまして報告事項は項目4「その他」になります。

(1)(2)(3)と、その他事項がもう1つあります。大きく3つに分けて報告・質問等していただく形で考えております。では1つ目をお願いします。

○事務局

(1)「2025年度町田市立図書館利用者アンケート総合満足度の結果について」を報告させていただきます。資料については、当日配布資料の「総合満足度結果」と「利用者アンケート調査票」になりますので、そちらをご覧ください。

図書館利用者アンケートは、利用者へのサービス・施設の満足度を把握し、図書館運営に生かすことを目的として実施するものになっております。今年度については12月2日火曜日から7日日曜日の6日間、図書館全館で実施いたしました。こちらが調査の際の調査票になっております。

回答については現在集計中ですが、速報版として「総合満足度結果」を記載しております。アンケートの回答件数は1966件となっております。

総合満足度についてですが、調査票を1枚めくっていただき、「Ⅳ総合満足度」の設問について集計を速報版として集計したものとなっております。総合満足度については、図書館サービス全般について何う設問と、図書館のデジタルサービスについて何う設問があります。図書館サービス全般については全館とも「満足」「やや満足」を合わせて9割以上となっております。デジタルサービスについては全館とも「満足」「やや満足」を合わせて8割以上となっております。

3月中に他のすべての調査項目について回答の集計を行い、報告書の形で図書館ホームページにアップする予定となっております。アップされましたら委員の皆様にもメールなどでお知らせいたします。

○委員長

ありがとうございました。まだ集計中とのことですが、総合満足度結果だけを取りまとめてご提示いただきました。こちらの速報値のみではなかなか難しいかもしれませんが、も

し何かございましたらご発言をお願いいたします。

ちなみに利用者アンケートは、今年度初めて全館で行ったのでしょうか。

○事務局 前は2023年度に行っております。

○委員長 その時も同様な内容でしたでしょうか。

○事務局 評価項目は年度ごとの変化を見るために、あまり変えていないのですが、今回新たにシステム更改があった関係で、システムの設問を増やしております。毎年、回答数はおよそ2000件程度になっております。

○委員長 来館してくださる方は非常に満足度が高くご利用いただいていることが、この速報値から分かりました。この後、移動図書館のアンケート結果も出てまいりますので、そちらもご報告いただいた上で、利用者アンケート全体に関して何かご発言ありましたら、お伺いできればと思います。

では(2)「移動図書館利用者アンケート集計結果(速報値)について」と『移動図書館巡回場所「馬場児童公園前」の巡回終了について』を合わせてご説明をお願いします。

○事務局 (2)「移動図書館利用者アンケート集計結果(速報値)」についてご説明いたします。当日配布資料「移動図書館利用者アンケート集計結果(速報値)」をご覧ください。

こちらは移動図書館の利用状況を調査し、今後の運行改善の参考とするため実施いたしました。2025年10月28日から11月21日まで実施いたしました。

実施場所は各定期巡回場所、堺図書館22か所、さるびあ図書館37か所、合計59か所において2回行いました。その結果561件の回答をいただきました。

別紙、当日配布資料「移動図書館利用者アンケート調査票」をご覧ください。こちらに記載のあるとおり全部で12の設問に回答していただきました。再度「アンケート集計結果(速報値)」の方に戻ります。

自由記載を除く集計結果についてはご覧のとおりです。簡

単に内容についてご紹介いたします。

問1と問2では利用者の年齢層と同伴者について質問しており、年齢層においては、「70歳代」が最も高く、次いで「80歳代以上」となっています。

問3では、移動図書館の利用頻度の質問となり、「毎回」が最も高く、次いで「1か月に1回程度」となっています。

問4では、移動図書館を利用する主な理由を質問しており、「近くまで来てくれるので便利だから」が最も高くなっています。問5から問7までは日常生活で利用している交通手段について質問をしています。

問8では、移動図書館以外の建物図書館などの利用について質問をしており、「利用していない」が最も高く、次に「中央図書館」「鶴川駅前図書館」が続いています。

問9から問11までは、町田市の「返却・予約本受取窓口の利用」や「インターネットの利用」、「町田市の電子書籍サービスの利用」について質問をしています。

最後の問12では、「熱中症警戒アラートの発表により移動図書館運休時における各サービス、施設の利用状況」について質問をしており、「利用していない」が最も高く、次いで「町田市の図書館や町田市民文学館を利用した」と回答しています。

詳細な分析についてはこれから行っていますが、今後の移動図書館運行の参考にしていきたいと考えています。また、このアンケートの正式な集計結果につきましては、後日図書館ホームページでお知らせをする予定です。その際には、委員の皆様にもあらためてご案内する予定です。

続きまして（3）『移動図書館巡回場所「馬場児童公園前」の巡回場所終了について』をご説明いたします。特に資料はございません。移動図書館の巡回場所である町田市小山町210番の「馬場児童公園前」での巡回を2025年12月18日に終了いたしました。

この場所は、公園の前にある店舗の駐車場を借りて、2週間に1回木曜日の午後に巡回をしていました。2025年11月に土地所有者からこの場所での利用を2025年12月で終了したいという申し出がありました。このため利用者に対しては、この場所での巡回を終了することと、近隣の巡回

場所などを案内するチラシを配布し、また図書館ホームページで周知を行いました。

今後につきましては、保育園や幼稚園など子どもの集まる場所を中心に出張運行の拡充などを進めていく予定です。

○委員長

先ほどD委員からのご発言がありましたが、町田市立図書館の特色の1つである移動図書館で、実際の利用状況についてアンケートを行い、その結果をご報告いただきました。巡回場所が1か所終了したことは大変残念ですが、土地所有者の方のこともありますので、アンケート集計結果もふまえた上で、別の形で今後の展開を考えるということについてもご報告をいただきました。

ここまでの(1)(2)(3)について、皆様からご意見などございましたらお願いいたします。

○B委員

私は宅配ボランティアの際にさるびあ図書館にも行きます。裏から入ると、さるびあ号が2台止まっているのですが、少し古い感じのデザインだなと感じていました。資料「移動図書館利用者アンケート調査票」の3ページ、移動図書館をご利用される主な理由について、ご高齢の方は当然便利なので、これだけ数値が上がっていると思うのですが、子どもが喜んでいるのかが疑問です。この部分を伸ばすのであれば、例えばデザインを考えた方が良いのではないのでしょうか。先ほどゼルビアとの提携の話もありました。予算の面もあるかと思うのですが、1台をゼルビアのラッピングにするのも良いと思います。また皆様から公募し、そよかぜ号をさわやかにする、子ども達が「あ、移動図書館が来た！」と楽しめるようにするのも良いと思います。先ほど幼稚園や保育園にも行くとも伺いましたし、移動図書館は3台あるそうなので、古い状態のままではなく少しずつ楽しむ方に変わっていくと良いと思います。さるびあ図書館の倉庫へ行くたびに寂しい気持ちになっていたのもう少し出来ることがあるのではないかと、このデータを見て感じました。

アンケートの自由記述の中で「移動図書館の車を変えてほしい」というような要望はあったのでしょうか。

○事務局 自由記述については集約している最中のため、まだ全てを読み取れてはいないのですが、そういった老朽化などの点に関して、今後の対応が必要だと思っています。

○委員長 ありがとうございました。他にはいかがでしょうか。

○副委員長 移動図書館については2年ほど前からこちらの協議会で、何度も巡回場所の増減や、移動図書館車の買い替えの協議をしていました。コンパクトにするという話でしたが、現場の方からは買い替えないと聞いています。実際どうなっているのでしょうか。

○事務局 図書館としては、小型化に買い替えたいとずっと考えておりまして、実現させようとして頑張っているのですが、昨今の財政状況を考えると実際には難しいところがあります。ただ、そこで諦めるわけにはいかないので、これからも実現できるように取り組みたいと考えます。

直近で新しく行った幼稚園もあります。そこに行った際に、100人を超えるくらいの子ども達を楽しみに待っていて、やはり車が目を引きます。そして、ホールに集まりお話し会のような形で行いました。車を見る班とお話し会を開く班の2つに分かれ、交代をしながら行いました。

非常に子どもにも評判が良いのですが、市役所内部にもなかなか伝わらないので、我々としても伝えていけるように、実績などを積んでいくのが必要だと思っていますし、さまざまな方法で立証していきたいと思っています。我々は断念してはいないので、今後も応援していただければと思います。

○副委員長 移動図書館は、芹が谷公園内の「芹が谷冒険遊び場」の前にも、4週間に1回来ていただけていますが、子ども達は非常に楽しみにしています。図書館の方が一生懸命に、サンタクロースの格好をして大きな声で本を読んでもらったり、椅子をたくさん並べ、お話し会を行っている姿を、子ども達はスタンディングオベーションというほどではないのですが、立ってじっと見ていました。その光景の写真があまりに良かったので、その写真をさるびあ図書館に送ったことがあります。

それほど子ども達は楽しみにしています。冒険遊び場には、室内では収まらない元気な子ども達がたくさん居るので、公園に出向いていただいたことで、子ども達が本に触る機会が増え、本をととても好きになりました。今もとても楽しみにしています。図書館の方が子ども達を楽しませるために、とても頑張っているということを声を大にしてお伝えさせてください。

○委員長 他の方はいかがでしょうか。

○G委員 今のように、保育園で子ども達に喜んでもらった、公園でこのようなことがあったという情報を、図書館からホームページなどで発信はできないのでしょうか。私たちはBMが子ども達にそこまで喜ばれているということをどこで知れば良いのでしょうか。そういう努力はなさっているのでしょうか。

○事務局 図書館協議会の中では、今までも資料などで移動図書館のお話しを発信しておりました。ただやはり、私たちが取り組んでいることなどを対外的に広く知っていただくことで、共感が生まれてくると思いますので、仰っていただいたとおり、積極的に広めていけたらと思っています。

しかし、子ども達が映っている写真を外に出すのはなかなか難しい部分もあります。そのような部分も、園側の状況も考えながら、町田の移動図書館はこんなに良いことをやっていると対外的に示せるように取り組んでいけたらと思っています。

○委員長 移動図書館だけではなく、利用者アンケートのことや関連したお話しでも良いので、何かご発言いただけたらと思います。

○D委員 図書館の利用者アンケートのことです。こちらはすごく良いことだなと思っています。毎回できるのかはわかりませんが、やはり推移を計るにはとても良いと思います。

鶴川駅前是指定管理者になり、人気が出てきて全体の件数が多いので、アンケートの回数も多くなっているのだと思う

のですが、さるびあ図書館や忠生図書館も割と評価が高いのはなぜなのでしょう。

3点ほどあるのですが、まずは1点伺いたいと思います。

○事務局

まだ集計は確定していないので、詳細な分析までは行えていないのですが、忠生図書館については比較的新しいということが要因なのかと思います。鶴川駅前図書館については、開館時間も長いことなどの要因もあるかと思います。まだ詳しく内容を確認していないので、集計が終了いたしましたら周知させていただきます。よろしくお願いいたします。

○D委員

さるびあの移動図書館については、以前からずっと稼働していて、もちろん小学生や中学生、外遊びの子ども達が気楽に利用することがあると思います。

しかし実際に使っている方々は、70代80代だと思います。そうすると、この70代80代の方々にとって頼りになる存在なのだろうと思わざるを得ないと感じます。例えば、たまにデイケアセンターなど高齢者の方々がアクセスできるような場所に行ってみるということはあるのでしょうか。

また、高齢者と子どもが一緒になって本の読み聞かせなどを行うようなイベントがあってもいいのではないかと思います。その点はいかがでしょうか。

○事務局

そういった高齢者の方に向けた巡回などは、今のところやっておられません。今は、子ども達が集まる場所を中心に巡回することを優先で進めているところです。

○D委員

3点目なのですが、主に生涯学習審議会の会議録があり、そちらの関係になるかと思います。町田市立図書館は非常によくやってくれていると私は評価しています。ただやはり、予算がもう少し豊かになると、移動図書館車も含めもっと良いことができるのだろうと思います。

サッカーやサッカーを中心としたスポーツ、そしてその周辺のさまざまな医学的あるいは生理学的なものを広めていくことは、もちろんそれはそれで良いと思うのですが、やはり文化的なものにも力を入れることが必要なのではないのかと

思います。

またこの頃、大きなカレンダーをくれる回数がすごく減っていると感じています。町田の図書館がカレンダーを作る際にはA5版ぐらいのものになるかと思います。それも良いですが、ゼルビアと一緒に大きなポスターやカレンダーを作るのも、とても面白いのではないのでしょうか。そして、上手くすると売ることもしめるのではないのでしょうか。サッカーの試合の時に売るのも良いのではないかと思います。もちろん図書館が商売を行ってはいけないのですが、そのあたりのことも考える時代になりつつあるのではないかと思います。

○事務局

商売というわけではないのですが、図書館の2階と6階に自動販売機を設置いたしました。ご購入いただくと我々図書館の収入になります。皆様、お帰りの際には利用していただくとありがたいなと思います。

そういった歳入を確保する取組というのは非常に大事だと思います。大きなカレンダーを作るとはなかなか難しいかもしれませんが、先ずは先ほどお配りさせていただいたコラボしたカレンダーを着実にやっていき、来館者を増やし、他にも歳入確保という取り組みが考えられるようなら積極的にやっていきたいと思っています。

今のようなアイデアやご意見をいただくと、私共も検討が進みますので、是非今後ともよろしくお願いいたします。

○委員長

H委員、何かご意見などありますでしょうか。

○H委員

意見とは少し違うかもしれないのですが、F C町田ゼルビアとのコラボはとても良いなと思っていて、先ほどXも少し確認したのですが、普段の町田市立図書館の公式のツイートが一桁代でした。しかし、町田ゼルビアも宣伝しているときは、136など三桁で、リポスト数も32のあたりだったので、本当に効果があると感じました。F C町田ゼルビアに関わらず、何かいろいろなものとコラボして周知に繋げていくのもすごく良いのかなと思いました。

○委員長

ありがとうございます。

続いて資料に記載はないのですが、もう1点あるため、そちらに進んでもよろしいでしょうか。最後にまた改めて、お時間ありましたら戻ります。では事務局から、記載のない件についてご説明をお願いします。

○事務局

私から2点報告させていただきます。

まず、皆様に当日配布資料として配布させていただきました「生涯学習審議会の会議次第」と、その時に配布された生涯学習審議会の資料1「答申『今後の町田市立図書館のあり方について』に係る取組状況について」を、併せてご覧いただければと思います。こちらは1月29日に開催されたもので、第6回の生涯学習審議会の議題になったものでございます。

先ほど、「答申『今後の町田市立図書館のあり方について』に係る取組状況について」をご報告させていただいたのですが、こちらは2019年1月に生涯学習審議会から答申をいただきまして、それを受けてどのような取組を図書館がしてきたのかというのを報告したものでございます。

まず取組状況の方をご覧いただきたいのですが、項目1で町田市立図書館の概要について簡単に説明をいたしております。そして項目2からがその本体の内容になっております。2019年の答申でいただいた4つの「町田市立図書館が目指す姿」に沿って、取組をまとめております。本日は全てご紹介することは難しいのですが、大切な部分をご紹介させていただきたいと思います。

まず、1ページ目の〈あらゆる市民が利用しやすい図書館〉についてです。こちらで取り組んだこととしましては、2枚目をご覧ください。

上から3つ目からです。指定管理者導入により開館日時を拡大出来たこと、障害をお持ちの方に向けたサービスとしてマルチメディアデイジーの上演会や、児童向けの点字体験会などを実施いたしました。また、来館しなくてもご利用いただける電子書籍サービスの導入などを、目指す姿に沿って取り組んだところでございます。

続いて3ページをご覧ください。次は〈子どもの読書活動の充実につながる環境整備〉です。こちらで取り組んだ項目

については、その下に記載がございます。

まず、町田市立小・中学校の児童・生徒の電子書籍サービスのIDの配布、外国語の絵本や児童書の充実や、英語多読コーナーの設置などに取り組んだところでございます。

続いて4ページをご覧ください。目指す姿の3点目＜地域のコミュニティ形成を支援する図書館＞でございます。

こちらで取り組んだ項目としましては、保育園・幼稚園や小学校などで読み聞かせを行っている保護者を対象にした読み聞かせの講座や、図書館でおはなし会ボランティアをしている方の養成講座、報告事項でもありました図書館プランナーの活動、そして鶴川図書館再編によって生まれた「つるぼん」の開館に取り組んだところでございます。

最後5ページをご覧ください。＜地域の課題や社会状況の変化に対応した運営＞となります。中央図書館でインターネットの端末などをお持ちでなくても、インターネットをご利用いただけるようにタブレット端末の貸出を始めたことや、図書館全館でフリーWiFiが導入できたこと、窓口に来ていただかなくても、オンラインで図書館利用券の登録や更新手続きが出来るようになりました。またLINEと図書館システムを連携させて、LINEから本の予約などもできるようになりました。このような事に取り組んだところでございます。

続いて6ページ7ページの部分なのですが、図書館の再編を進める上での留意点につきましても、審議会からいただきましたので、こちらは鶴川図書館の再編について、どのように取り組んできたかをまとめて報告したところでございます。これらの報告をいたしましたところ、審議会の皆様から図書館はとても多彩な取組をしていることや、つるぼんの運営支援などは先進的な取組をしているのではないかということ、かなり高い評価をいただいたところでございます。詳しくは後日、町田市議会のホームページに議事録が公開されますので、ご覧いただけると幸いです。

そして2点目です。生涯学習審議会に関するお知らせでございます。生涯学習審議会は26年度から第8期に切り替わります。図書館協議会からの委員の選出につきましては、前回の議題でA先生に委員を務めていただくことになりました。

ので、引き続き協議会から委員の推薦をさせていただきます。

また生涯学習審議会では公募の委員を募集しておりまして、その募集が2月15日から始まります。条件は生涯学習審議会に出席が出来て、町田市民であれば大学生の方でも委員になっていただくことが出来ます。もし皆様のお近くにご関心がある方がいらっしゃいましたら、お声掛けいただけますと私どもも大変有難く思いますので、よろしくお願いいたします。

○委員長

先ほど事務局からお話がありましたとおり、協議会からはAさんに代表して出ていただいております。Aさんから何か補足などがありましたら、お願いいたします。また皆様からも、生涯学習審議会での議論について、ご質問やご意見がありましたらお願いします。

私は、生涯学習審議会でのこの答申が出ていることを知りませんでした。2019年1月に答申が出て、それを基にして図書館で方針を定め、丸7年掛けてこのような形で様々な活動に取り組んでいらしかった。取組に関しては、協議会でもその都度報告がありましたでしょうし、皆様からのご意見も踏まえ、いろいろと活動に広がりが出たのだろうと理解いたしました。皆様が見知った活動も含まれていると思いますが、このような形で全体を見渡して図書館が活動されているということを、改めて一覧で見させていただくことは、とても意味のあることだと思います。

○A委員

当日は細かな問題というより、全体的な委員の所感や採点が共有され、それはそれで大変貴重な場だったと思います。

私が生涯学習審議会の委員をやっていることは、生涯学習審議会は図書館関係のことが話されている時に、あまり共有される機会がないことが時々ありました。こちらの議論が向こうに届けられると同時に、生涯学習審議会の図書館関係のことだったら、こちらの図書館協議会でフィードバックできる機会があったらいいと思います。

○委員長

今のAさんのご意見や、事務局からのご説明について、なにかご意見などがありましたらお願いいたします。

○D委員

私から言うことではないのかもしれませんが、生涯学習審議会はいろいろなものを審議して答申を出していますが、一番優等生なのは、ことばらんどだと思います。廃止目前から見事に復活し誰も否定できなくなり、非常に優れていると思います。それは図書館との関係の中で、巻き返したということだと思います。図書館の取組は生涯学習審議会の中で非常に優等生であると思っています。それはA先生をはじめとする皆様のご協力があってこそだと思います。図書館長も非常に頑張ってくださっていると思いますが、やはり生涯学習の中核にある図書館を大事にして、きちんと予算を付けないのはおかしいとずっとと思っています。

先ほどお話しがありましたが、SNSも世代によって全然違うと思います。私たち熟年層はフェイスブックを使っていますが、若年層はXや、短いショート動画などをたくさん使っています。そのような違いがあるので、SNSは世代間で対応の違いがあってもいいかなと思います。どのように顧客を増やすかと考えたときに、やはりLINEを使っています。LINEはどこでも使えるので、例えばLINEのネットワークを使い、FC町田ゼルビアと一緒にプロジェクトのような形や、推し活のような形で増やしていくのもありだと思います。

またこれは私の知見なのですが、図書館は町田が行っているように企業と繋がっています。例えば本屋さんと繋がり、ポップコンテストで本屋大賞というものもありますが、そこと上手く繋げてコラボすれば本屋さんの売上にもなると思います。好きな本はすぐに手に入れないこともあり、予約しないといけなくなったら図書館には無理なので、本屋さんで買うことになると思います。全体として読書活動や読書の推進というのは、企業との連携の中でも行っていく必要がありますし、それを図書館が意識的に考えていくのも今後の方向だと思います。

○委員長

大変恐縮なのですが予定は4時まででして、今ちょうど4時になりました。もし可能でしたら10分延長させていただいて、全ての審議を終えたいと思います。もし4時で退出せ

ざるを得ないという方は退出いただいて構いません。皆様よろしいでしょうか。

○一同 同意。

○委員長 ありがとうございます。いつも若者代表と言ってしまうのですが、HさんはSNSの話に関してはいかがでしょうか。

○H委員 いろいろなことが重なり、SNSでの発信が難しい部分もあると思うのですが、試行錯誤し工夫して有効活用して更に周知を広げていっていただきたいと思います。

○委員長 今回、生涯学習審議会の話ではありましたが、学校教育も繋がっていると思います。宜しければEさんからご発言いただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

○E委員 生涯学習審議会の答申の6ページ、7ページにつるぼんのこと書かれています。私は鶴川中学校の校長なので、毎日つるぼんを見ながら通勤をしています。確かに入りやすい雰囲気だと感じています。民間活力の導入というのは、これからの図書館の在り方として、市民ニーズを反映させてという意味で、経済ベースであった方が良いのかなという感覚を強く感じました。8つの図書館のうち全ての館に出向いたわけではありませんが、満足度の高い忠生は冊数が多い印象があります。以前に勤務していた学校の近くにあった図書館は、遊び場としては子どもが集まるけれど、図書が若干充実していないと感じ、少しですがやはり満足度も低いということもありました。そのようなことから今後の図書館は、地域と密接な関係を持つていくためには、そのような入りやすい雰囲気というのがとても大事なと感じました。

それは学校の図書館においても同じで、図書館指導員さんが非常に苦勞して盛り立ててくださっているところは、貸出冊数が多いと体感としては感じています。

○委員長 ありがとうございます。いかがでしょうか。生涯学習審議会の話もありましたし、図書館からの報告事項でも他のもの

でも構いません。

○G 委員

戻ってしまいますが、図書館評価です。中央図書館を評価する際に、行政評価シート 1 枚でした。このシートのみで評価するのは非常に困難でした。下の方には分析と記載があるのですが、分析ではなくてこういう金額でしたという記載しかなく、その数字をどう分析したのかということが書かれていないので、それを評価するのはとても難しかったです。

来年も分館の行政評価シートが出てくるかと思いますが、これだけでは評価は難しいと思うので、もう少し踏み込んで、実際に現場の人に会ったり図書館を見学したり、分析に関してもこの実績をどう分析したのかが記載されている資料を見させてもらえるように、ぜひ変えていただきたいと思います。

そしてこれらは、予算を獲得するためのツールになると館長が仰っていたので、こちらで資料費を上げないことには来館者を増やすことができないので、ぜひ頑張っていただきたいと思います。

それからもう 1 点あります。集英社の漫画の読書会ですが、こちらは集英社がバックアップしてくれるのでしょうか。また集英社限定なののでしょうか。

○事務局

バックアップがあるわけではなく、集英社の漫画を語りたいということです。

○委員長

ありがとうございます。外部評価の報告書にも記しましたが、市あるいは図書館が市民に対して適切に説明することも、行政の 1 つの仕事です。ぜひ G さんや他の方からいくつかご意見がありましたので、今後の検討材料として、改善の方向で進めていただけたらと思います。

最後にこれだけはどうしても話したいという方、1 つだけ受け付けたいと思いますが、いかがでしょうか。

では、ここまでつたない司会ではございましたけれども、第 2 回の図書館協議会のほぼ全ての議事が終わりましたので、その他に移りたいと思います。その他事項で委員の皆様から何かご発言はございますでしょうか。

特に無いようですので事務局にお戻しいたします。

○事務局

皆様、長時間お疲れ様でした。本日も貴重なご意見いただきましたので、我々も今後検討しいろいろと取り組んでいきたいと思います。

次回の開催は、次年度になります。開催日程につきましては、また改めて調整をさせていただければと思います。事務局の方から日程調整のご連絡をいたしますので、ご回答いただけますようお願いいたします。

本日もありがとうございました。